

旧三田川中学校（校舎）利活用方針について

《全国の廃校の状況》

全国の廃校発生件数は年間500校となっており、廃校合計は令和5年度で7,612校（公立学校）である。
→立地、周辺環境において有利な土地でも廃校は発生しており、廃校利活用の競争は年々激しくなっている。

旧三田川中学校は



校舎は撮影の随時受入れで活用されているが年々減少。また、体育館、校庭についてはスポーツ団体等により高い利用率である。

新たな利活用を！

このまま放置すると

活用するのであれば地域の活性化になるものを！

地域経済や振興に資する提案を広く公募

想定する業態、企業等

- ・製造業の拠点として校舎を使いたい！
 - ・会社の事業で使うけど、年に数回は広く地域に対して開放し、イベントをしたり、地域イベントがあれば広く開放をする。
- など



校舎の管理が行き届かずに荒廃し、利活用競争に遅れてしまい、廃止施設となってしまう。

旧三田川中学校は、活用状況から校舎のみを対象とします。

三田川地区、特に近隣住民の皆様のご理解を得ながら撮影等で利用される校舎も、他の閉校学校の開放が進み、年々利用率は落ちている。魅力ある作りの校舎を今一度活用頂ける事業者を選定し、主に雇用の創出の場になることを目指す。

今後利用者を公募する可能性有り

基本的な考え方

- ① コストの検討 長期にわたる利活用にあたっては、施設改修費や長寿命化への対応が必要となり施設整備費がかかる。そのため初期のインシャルコストと維持管理のランニングコストを検討し、事業者を決めていく必要がある。

	改修費	維持管理費	備考
町主体	数千万円	約100万円／年間	※町が主体で事業を進めた場合の費用負担 撮影を受け入れ、一定の歳入も有るが 収支はマイナスとなっている。
民間事業者	事業者負担	事業者負担	※実質町からの費用負担なし また、有償の賃貸借を考えているため、 一定の歳入が見込める。

- ② 事業者の選考 事業者は広く公募により募集し、小鹿野町空き公共施設利用者選定委員会で審査。

- ③ 活用方針 特に業種は指定しません。社会の秩序や一般的な道徳観念に反する行為を行わないことなどを前提に、学校であった場所にふさわしく、地域になじむような業者を選定する。
また、有償の貸付を前提とするため、その経営状況や収支見通しが確実なものであることも審査対象とする。

今後のスケジュール（案）

現在時点では未定です。

小鹿野の夏を彩る花火大会、各スポーツ団体（ミニバスなど）の大会実施など、校舎を軸にとりまく周辺状況を慎重に精査し、検討をしてみたいと考えています。